図書館だより

11月図書館カレンダー

日	月	火	水	木	金	土
1	②	③	4	5	6	7
8	⑨	10	11	12	13	14
15	⑯	17	18	19	20	21
22	㉓	㉔	25	26	㉗	28
29	㉚					

○印　休館日
月曜日・祝日(3日)
祝日振替(24日)
月末館内整理日(27日)

今月の新刊図書案内

一般図書

カンタンスラスラべんり速読術　斉藤英治
愛情という名の支配　信田さよ子
自分の壁を破る人破れない人　渡部昇一
日韓いがみあいの精神分析　岸田秀・金両基
戦争と罪責　野田正彰
当てはずれの面々　杉浦明平
日本の危機　桜井よしこ
知っておきたい暮らしのトラブル110番　山口英資
謎解きニッポン経済の不思議　日本経済新聞社
生き残れるか生保会社　舘沢貢次
女たちの静かな革命　日本経済新聞社
特殊部隊全史　マーティン・C・アロステギ
インターネット中毒　キンバリー・ヤング
食品汚染がヒトを襲う　ニコルズ・フォックス
リサイクル手すきのハガキ　中村美登利
花一輪からの日本の刺繍　草乃しずか
ミントブック　桐原春子
ハムスター選び方・育て方　藤原尚太郎
泰西からの手紙　久世光彦
としのさんの手づくり　えほん教室
図解毛筆書き方字典　牧島としの
素晴らしきラジオ体操　阿保直彦
手紙文例・スピーチ例事典　高橋秀実
英語できますか？　三省堂編修所
俳句入門　井上一馬
霞町物語　榎本好宏
平安京の検屍官　浅田次郎
啓太の選択　川田弥一郎
その後のシンデレラ　坂上　弘
部長の大晩年　清水義範
猫の似づら絵師　城山三郎
松永弾正　上・下　出久根達郎
夜光虫　戸部新十郎
ディール・メイカー　馳　星周
むかし噛うきよ噛いのちまんだら　服部真澄
マン島の黄金　小沢昭一
　　灰谷健次郎
　　アガサ・クリスティー
　　外二二五冊

児童図書

聴導犬シンディ誕生物語
盲導犬グレフ誕生物語
トミザワおじさんの天気のはなし
樹木のふしぎと森の偉大な働き
わくわくれっしゃ
カメラスーパーテクニック
雨ニモマケチャウカモシレナイ
こねこムーとひみつのたまご
カニの子どもが本を読んでますわーい、ぼくが先生だ！
シーラスセバスチャンの遺産
日本をあるいて絵かきになるんだ
ワイワイばたけはおおさわぎ
愛についてのちいさなおはなし
星空のどうぶつえん
　　外八三冊

市立図書館 今月の一冊

『時計つくりのジョニー』

エドワード・アーディゾーニ 作
あべきみこ 訳　こぐま社 刊

ジョニーは手先が器用で、物を作るのが大好き。ある日、本物の大時計を作ろうと心に決めて…。周りの大人たちの態度にもめげず、好きなことに夢中で打ち込む少年の姿を生き生きと描いた絵本。

『キレる子、キレない子』

石田一宏 著　大月書店

親は口数を減らし、聞き上手になろう。少年によるナイフ刺傷事件など社会の問題や子どもの文化の問題について考察。「キレない心」を育むために、安心感を子どもたちに与える大人社会の必要を説く。

心の健康シリーズ（67）

もう一度家庭を見直そう

家庭の在り方を問い直す（2）

◎やってはいけないことや間違った行いはしっかり正そう

子どもたちの規範意識の低下が目立っています。また、他人から叱られて必要以上に傷ついたり、逆上したりもしますが、きちんと叱られる経験が欠けていることがその一因と考えられます。

◎自分の行いには責任があるということを教える

子どもたちの自己中心的な言動や自立の遅れの背景には「自己責任の考え方の欠如」があります。

心がけたいことは、後かたづけをきちんとさせる。家事の手伝いをさせる。異年齢集団での遊びや地域の活動を体験させ、責任感を育てる。

◎自分の子だけよければよいという考え方をやめよう

「自子主張」というような親の考え方が思いやりの心、正義感や社会のルールを守る心を育む上で悪い影響を与えています。

◎思春期の子どもから逃げず、正面から向かい合おう

親は思春期の子どもに対して腫れ物に触るような接し方になってしまう傾向があります。

子どもに自立を促すとともに自らの責任を自覚させるようにしましょう。

◎非行の前にあるサインを見逃さないようにしましょう

「普通の子」の「いきなり型」非行が増えてきていますが、一見「普通の子」でも必ずその前にサインを発しているものです。それを親が見逃しているか、目を背けてはいないでしょうか。サインに気づいたときには、両親で話し合い、子どもと会話する糸口を見付ける努力をし、必要な場合には相談機関や先生に相談しましょう。

◎祖父母を大切にする親の姿を見せよう

高校生の国際比較調査では「親の面倒を見たい」との回答が、我が国で際立って少なくなっています。親が率先して祖父母を大切にする姿を示しましょう。

◎差別や偏見は許されないことに気づかせよう

自分の子どもが「いじめ」に加わっていたり、他人を差別するような言動をしていることに気づいた時には、悪いことであると教え諭しましょう。

◎幼児には親が本を読んで聞かせましょう

子どもが本に親しむようにするには、幼少期の体験が重要です。幼児のときから毎日本を読んで聞かせることは心の成長に大きな効果があります。

文部省発行「新しい時代を拓く心を育てるために」より

子どもの悩みごとは　教育相談室へ

（八朔屋台展示庫前）
月～金　午前9時～午後4時30分
☎(43)1323